

平成 2 3 年度
(2011 年度)

事業報告書

自 2011 年 4 月 1 日

至 2012 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

平成 24 年 6 月 20 日

平成 23 年度 事業実績報告書

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

名 称： 第 24 回東京国際映画祭
主 催： 公益財団法人ユニジャパン
(第 24 回東京国際映画祭実行委員会)
共 催： 経済産業省 (マーケット部門)
東京都 (コンペティション部門)
期 間： 平成 23 年 10 月 22 日 (土) ~ 平成 23 年 10 月 30 日 (日)
企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、
ワールド・シネマ、natural TIFF、映画人の視点、香川京子と巨匠たち、
みなと上映会、TIFFCOM 2011、第 8 回文化庁映画週間 他
会 場： 六本木ヒルズ (港区) をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・
ホールを使用
後 援： 総務省／外務省／環境省／観光庁／港区／(独) 国際交流基金／
(独) 日本貿易振興機構／東京国立近代美術館フィルムセンター／
(公財) 港区スポーツふれあい文化健康財団／(財) J K A／
東京商工会議所／(社) 日本経済団体連合会／
(一社) 日本映画製作者連盟／(一社) 映画産業団体連合会／
(一社) 外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション (M P A)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
N P O 法人映像産業振興機構／(一社) 日本映像ソフト協会／
(財) 角川文化振興財団／(財) デジタルコンテンツ協会／
(社) デジタルメディア協会
助 成： 文化庁
補 助： 財団法人 J K A (競輪補助事業)
スペシャル パートナー： トヨタ自動車(株)
オフィシャル パートナー： (株) 木下工務店／日本コカ・コーラ(株)
協 賛： キヤノン(株)／(株) 大和証券グループ本社／ソニー(株)／(株) ファンケル／
パナソニック(株)／森ビル(株)／(株) WOWOW／凸版印刷(株)／
(株) A O K I ホールディングス／富士フイルム(株)／ソニー P C L (株)／ぴあ(株)／
(株) ローソン／松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／(株) 角川書店／日活(株)／
T O H O シネマズ(株)／(一社) 映画演劇文化協会／
(株) ティー ワイ リミテッド
特 別 協 力： 読売新聞東京本社

フードサポーター： (株)宗家 源 吉兆庵

協力： Cine Grid／帝人(株)／テレビ朝日／(株)J-WAVE／
ゲッティイメージズ ジャパン(株)／(株)Jストリーム／ブライトコープ(株)／
東京メトロポリタンテレビジョン(株)／ジュピターエンタテインメント(株)／
(株)ウェイブインパクト／NTTコムウェア(株)／(株)小田急百貨店

[開催概要]

第24回東京国際映画祭は平成23年10月22日(土)から10月30日(日)までの9日間、六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。今年で8回目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2011)も六本木アカデミーヒルズ内で開催されたが、各会場とも大変な賑わいを見せ、好評裡に終了することが出来た。

「信じよう、映画の力」をスローガンに、作品力、交流力、情報発信力の3つの力の向上を目指した24回であったが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、今回は仙台において被災地支援の上映会を実施した他、「TIFF ARIGATO プロジェクト」を展開して、日本の復興に貢献することが出来た。

今映画祭の自主企画は25企画、動員数は118,038名、上映作品数は177本であった。提携企画まで入れると、企画総数は37、総動員数は266,957名、総上映作品数は355本となった。

オープニングセレモニーは、10月22日(土)に、TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。依田・チェアマンの開会宣言の後、野田佳彦内閣総理大臣が祝辞を述べられ、続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれた。

オープニング作品は、ポール・W・S・アンダーソン監督の「三銃士／王妃の首飾りとダ・ヴィンチの飛行船」で、同監督と主演俳優のミラ・ジョボヴォヴィッチ、ローガン・ラーマン等の舞台挨拶もあり、会場は感動と興奮に包まれた。今年はまた特別オープニング作品として、ジャッキー・チェン総監督／主演(チャン・リー監督)の「1911」も上映され、華やかなオープニングデイとなった。「三銃士」の終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、「オープニング・レセプション」及び「グリーンタイ晩餐会」が行なわれた。クロージングセレモニー(授賞式)は、10月30日(日)に、TOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、「TOYOTA Earth Grand Prix」「最優秀アジア映画賞」「日本映画・ある視点作品賞」の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はエリック・トレダノ、オリヴィエ・ナカシュ監督(共同)の「最強のふたり」に、審査員特別賞は沖田修一監督の「キツツキと雨」に贈られた。また、「最優秀アジア映画賞」はジェフリー・ジェットウリアン監督の「クリスマス・イブ」に、日本映画・ある視点作品賞は小林啓一監督の「ももいろそらを」に、「TOYOTA Earth Grand Prix」はカミーラ・アンディニ監督の「鏡は嘘をつかない」に贈られた。引き続き、ベネット・ミラー監督他による舞台挨拶の後、公式クロージング作品「マネーボール」の上映を行い、終映後、アカデミーヒルズ49階タワーホールに会場を移し、「感謝のタベ」

を開催した。

【自主企画】

（１）コンペティション（共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2011年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人1名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月30日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万ドルが1作品に贈られた。

- ・東京サクラグランプリ：『最強のふたり』（監督 エリック・トレダノ/オリヴィエ・ナカシュ）
- ・審査員特別賞：『キツツキと雨』（監督 沖田 修一）
- ・最優秀監督賞：リューベン・オストルンド（作品『プレイ』）
- ・最優秀主演女優賞：グレン・クローズ（作品『アルバート・ノブス』）
- ・最優秀主演男優賞：フランソワ・クリュゼ/オマール・シー（作品『最強のふたり』）
- ・最優秀芸術貢献賞：『転山』、『デタッチメント』
- ・観客賞：『ガザを飛ぶブタ』

上映数 15作品 動員数 10,857名

（２）特別招待作品

国内未公開の話題作品を27本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映数 27作品 動員数 11,575名（「特別上映」4本を含む）

（３）アジアの風

現在世界でもっとも熱気が感じられるアジアの映画を対象に、さらに地域を拡大して選定した新作に「フィリピン最前線～シネマラヤの熱い風」、「女優＝プロデューサー杉野希妃～アジア・インディーズのミューズ」の特集も含め34本を上映した。各作品のスタッフや出演者を招聘して観客との交流をはかるとともに、国際映像マーケットにも参加してもらい、ア

アジア映画の産業の発展に繋げることが出来た。

上映数 34作品 動員数 9,064名

最優秀アジア映画賞

「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万ドルが贈られた。

・最優秀アジア映画賞：『クリスマス・イブ』（監督 ジェフリー・ジェットウリアン）

（４）日本映画・ある視点

活況を増している日本映画を対象に、ある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れた多様性のある作品9本を上映した。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

・作品賞：『ももいろそらを』 監督 小林 啓一

上映数 9作品 動員数 2,299名

（５）ワールドシネマ

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未公開の作品など、世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 14作品 動員数 5,761名

（６）natural TIFF

エコロジーをテーマに掲げた本映画祭が21回から新たに設けた部門。「自然と人間の共生」という視点から、ドラマ、ドキュメンタリーを含め、また新作、旧作を問わず柔軟な選定を行なった。

上映本数 10作品 動員数 2,043名

TOYOYA Earth Grand Prix

「natural TIFF」部門で上映された新作と、他部門での上映であっても、この趣旨に沿った作品対象に、審査委員会の審査により1作品が選ばれ、賞金5千ドルが贈られた。

・TOYOTA Earth Grand Prix：『鏡は嘘をつかない』（監督 カミーラ・アンディニ）

[共催・提携企画]

(7) 第8回文化庁映画週間

- ①「文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会」 10月22日(土) / 10月23日(日)

優れた文化記録映画3作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者6名を顕彰した

- ②「シンポジウム—MOVIE CAMPUS—」 10月28日(金)

国内外の映画製作活動や上映活動での新しい取り組み事例や、旬な映画文化の流れをアカデミックな視点で紹介。「映画でつながろう」をテーマに、アニメーションと実写の未来と可能性を探った。

- ③「映画ナビゲーターズ」 10月24日(月) / 10月29日(土)

“映画で学ぶ、映画で知る、”をコンセプトに本田直之氏と小島慶子さんを招き、映画作品の持つ奥深さや楽しみ方の秘訣をナビゲートするトークイベントを開催。

(8) みなと上映会 10月22日(土) / 10月29日(土)

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「メアリー&マックス」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い秀逸な作品を上映。セリフをその場で吹き替えるライブシネマ上映は、劇場のみならずアリーナでも行った。

(9) 東京国際女性映画祭 10月23日(日)～10月26日(水)

現スペイン文化大臣の登場で華やかに開会、アジア各国の女性映画祭ディレクターをゲストにアジア女性映画祭ネットワークの開催、「平塚らいてう」の再上映、3.11の記録映画など多彩な内容で盛況のうちに終了した。

(10) コリアン・シネマ・ウィーク 2011 10月29日(土)～31日(月)

韓国女性監督の短編・長編10作品の上映。韓日の女性映画祭関係者によるシンポジウム、『テンジャン』のイ・ソグン監督と、『ビューファインダー』のキム・ジョン監督による舞台挨拶も行い好評を得た。

(11) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア「フォーカス オン アジア」

10月27日(木)～10月30日(日)

河瀬直美監督の呼びかけに賛同した世界の21人による「3.11 A Sense of Home Films」を特別上映した他、岩田ユキ監督を講師に迎えてワークショップをも開催。

(12) 2011 日本・中国アニメ・フェスティバル／中国映画、テレビ週間

10月22日(土)～10月30日(金)

「日中映像交流事業」として、日中アニメ・映画産業相互発展のためのイベントが日中両国の各団体や企業の支援のもと合計13項目の内容で行うことが出来、各界からの好評を得るこ

とが出来た。

(13) 第4回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月16日(金)～9月19日(月)

伊東四朗氏へコメディ栄誉賞を授与、記念の特集上映やコメディ映画談義、コンペティションなど、多彩な企画を行ったほか、クロージングではエノケンと笠置シズ子のリスペクトライブに豪華アーティストが多数出演した。

(14) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム 10月27日(木)

伝統ある日本映画監督協会新人賞の第51回受賞者・大森立嗣監督と、TIFFコンペティション部門に参加のアルトゥーロ・ポンス、シルヴァン・エスティバルの2監督が、同賞映画上映後、活発な意見交換を行なった。

**(15) 「視聴覚障害者のための『映画』の在り方を考える」シンポジウム
『幸福の黄色いハンカチ』バリアフリー上映会**

10月28日(金)

シンポジウムは山田洋次監督の基調講演後、視聴覚障害者の映画鑑賞の未来について議論が交わされた。上映会では活弁士ライブ音声ガイド・HMDによる字幕表示実験を実施した。

(16) 伊丹十三監督作品回顧上映「JUZO AGAIN」

10月22日(土)～10月24日(月)

13年の時を経て、再びスクリーンに蘇った伊丹十三監督作品。日本橋三井ホールでは、宮本信子、津川雅彦、村田雄浩の3氏による舞台挨拶が行われ、そのトークに会場は盛り上がった。

(17) Cine Grid @TIFF 2011 10月25日(火)

最新の映像制作・配信技術に関するカンファレンス。2回目となる今年はTIFFCOM会場内にサテライト会場を設置、また震災被災地と4K双方向映像を結んでのパネルディスカッションなども開催された。

(18) 焦点・中国の動画配信ビジネス—流通促進と権利保護 10月24日(月)

ネット利用者が4億7千万人を超えたといわれる中国で、急成長する動画配信ビジネスに焦点をあて、現地から大手配信事業者を招いてその現状と日本コンテンツ進出の可能性を探った。

**(19) ミニセミナー「日本—香港 共同制作支援スキーム」& カクテルレセプション
「香港シネマ@TIFF」**

10月24日(月)

日本・香港より企画マーケット主催者及びファンド運営者を招いてセミナーを開催。共同製

作映画支援、特に資金調達に関する最新情報を提供するとともに、香港映画産業の最新動向についても紹介した。

(20) EOS MOVIE で拡がる映像の世界

10月29日(土)

ビデオ SALON の一柳通隆氏を司会に、EOS 7D で撮影された「歓待」の監督、深田晃司氏と撮影監督の根岸憲一氏を招いて、映像を見ながら EOS ムービーの撮影メリットなどについてセミナーを行った。

(21) その他の上映企画

①「GTF トーキョーシネマショー2011」 7月29日(金) / 7月30日(土)

初日は、第7回「筑紫賞:ゴールデンタイトル・アワード」の授賞式に続き、外国映画振興についてのシンポジウム行われた。2日目は新作映画3本の試写が行われ、盛況であった。

②「第19回キンダー・フィルム・フェスティバル」

8月12日(金) / 8月13日(土)、8月18日(木)~21日(日)

実行委員長の戸田恵子さんの下、新たに日本のアニメ『こま撮りえいが こまねこ』のこまちやんがディレクターに就任し、各メディアで大活躍した。中山秀征さん他、今年も多くのゲストが映画祭に参加し、連日、大盛況となった。

日比谷公会堂、調布市文化会館たづくりにて。

③「田辺・弁慶映画祭 2011」 11月25日(金)~11月27日(日)

コンペティション作品、招待作品、特別上映作品、応援上映作品計12本を上映。コンペティション作品は応募のあった53作品のうち、予備選考を通過した6作品を上映、審査を行って授賞作品を決定した。

【顕彰・助成】

① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラ グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。

② アジアの優秀作品に対する顕彰（最優秀アジア映画賞）。

③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画・ある視点 作品賞）。

④ natural TIFFF 部門の優秀作品に対する顕彰（TOYOTA Earth Grand Prix）。

【運営】

① 自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの風」
「日本映画・ある視点」、「WORLD CINEMA」、「natural TIFF supported by TOYOTA」、及び
今年だけの特別企画である「東京国際映画祭 in 仙台」特別上映会を実施した。

② 上映会場、各種会場

六本木地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHOシネマズ六本木ヒルズ（8スクリーン）

シネマート六本木（2スクリーン）

TOHOシネマズ・シャンテ（2スクリーン）

MOVIX仙台（2スクリーン）※上記、特別上映会会場

・その他の上映会場（提携企画を上映）：

セルバンテス文化センター東京、新宿ミラノ1、東京都写真美術館、
イタリア文化会館アニェッリホール、TOHOシネマズ日劇、東商ホール、
青山劇場／調布市文化会館たづくり、浅草公会堂、浅草中映劇場、
上野東急2、紀南文化会館、

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

- グランドハイアット東京：オープニング・レセプション、グリーンタイ晩餐会の会場として使用。

- アカデミーヒルズ：49階（東京国際映画祭事務局、マーケットスクリーニング、記者会見、各種取材、各種セミナー実施、感謝のタペ、TIFFCOMフェアウェルパーティ、エンジャパン・エンターテインメント・フォーラム）

40階（TIFFCOMのマーケット会場）

3階（プレス・インフォメーション、プレス・センター）

2階（インフォメーション・デスク、IDカウンター）

- ヒルズカフェ：TIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として使用。
- 六本木ヒルズ 大屋根プラザ：グリーンカーペット・エリアとして使用。
- 六本木ヒルズ アリーナ：週末を中心に各種イベントの実施に使用。

③ 入場料金

- 公式オープニング/特別オープニング作品・¥2,000-
 - 公式クロージング作品・¥2,000-
 - コンペティション・¥1,000-/学生¥500-
 - 特別招待作品・¥1,800-/学生¥500-
 - アジアの風・¥1,300-/学生¥500-
 - 日本映画・ある視点・¥1,300-/学生¥500-
 - WORLD CINEMA・¥1,300-/学生¥500-
 - natural TIFF supported by TOYOTA・¥1,300-/学生¥500-
 - みなと上映会・¥1,000-/学生¥500-
 - 映画人の視点・¥2,500-/学生¥500-
 - 特別上映・¥1,300-/学生¥500-
 - 香川京子と巨匠たち・¥1,000-/学生¥500-
 - 監督協会共催特別上映・¥1,000-/学生¥500-
 - バリアフリー上映・¥1,000-/学生¥500-
- ※ 公式・特別オープニング/公式クロージング作品を除く、全作品の学生当日料金を500円とした。

④ 会期中のイベント

(六本木ヒルズ アリーナイベント)

- オープニング・イベント：10月22日(土) グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。
- みなと上映会の実施：10月29日(土)、毎年恒例のハロウィンイベントに引き続き、テレ朝ビジョンを使つてのヴォイスオーバー上映を実施した。

(TIFF movie cafe ティフムービーカフェ)

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェを TIFF movie cafe (ティフムービーカフェ) として、様々な企画を行った。

- コンペティション作品記者会見、国際審査委員記者会見、各種パーティー
- T I F F night : D J やライブ演奏など

(グリーンカーペット・エリア)

六本木ヒルズ 大屋根プラザをグリーンカーペット・エリアと称して、映画とエコロジーをつなぐ空間を創出した。

⑤ インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズアカデミーヒルズエントランス内にて実施した。広く一般の六本木ヒルズ来場者に映画祭の案内を行うとともに、映画祭に訪れたマスコミ・映画業界関係者への案内業務を行った。

⑥ ボランティア・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑦ オリジナル・グッズの販売

TIFFオフィシャルグッズとして、ピンバッジ、エコバッグを作成した。エコバッグはSHIPSとのコラボレーションバッグで好評であった。

【広報活動】

① 新聞広告・・・「読売新聞」紙上

② 劇場予告・・・首都圏の主要劇場 9月下旬

③ プレスPASS・・・取材者向けのID登録。

プレスセンターやID上映での利用が可能になる。

④ 記者会見

- ラインアップ記者会見 2011年 9月20日 六本木ヒルズ・タワーホール
- 会期中の記者会見 六本木ヒルズ・ムービーカフェ
- 受賞者記者会見 2011年10月30日 六本木ヒルズ・スカイラウンジ

⑤ 宣伝素材・・・チラシ(全上映スケジュール入り)

公式プログラム、公式記録、ポスター、学販チラシ
「香川京子と巨匠たち」特集チラシ

⑥ パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEBポータルサイトへの特集掲載など

一般紙、スポーツ紙：新聞合計	876媒体
映画専門誌、情報誌：紙媒体合計	210〃
NHK、民放全局、BS・CS局他：電波媒体合計	155〃
インターネット：ネット媒体合計	5,470〃
海外広報：海外媒体合計	6,026〃
パブリシティ合計	12,640〃

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。

⑦ Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト

公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、T I F Fの最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの模様はT O K Y O M Xで放送し、C S映画専門チャンネルのムービープラスでもP R番組を放送した。

- ⑧ イメージネット・・・T I F Fの出品作品の素材を提供しているサービス。登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真や予告編映像等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

【東京国際映画祭地区委員会の活動】

- ① みなと委員会・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。今回も、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

- みなと上映会 区民などの家族を対象にした上映会の開催
2011年10月22日(土)／10月29日(土)
T O H Oシネマズ六本木ヒルズ、六本木ヒルズ・アリーナ
- 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペティション作品の賞
(賞金1万米ドル)
- 街頭フラッグの掲出
けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、芋洗坂商店街、
六本木材木町商店街にて合計305枚
2011年10月12日(水)～10月30日(日)
- みなとクリーンナップ・プロジェクト
六本木会場周辺の街頭清掃作業を行うべく、武井港区長、依田映画祭チェアマンをはじめ約331名が集合したが、雨天及び強風のため清掃活動中止と判断し、セレモニーのみ実施した。
2011年10月15日(土) 午前10時開始
- オリジナル広告 港区のKissポート誌に1ページ広告を掲載して、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計150,000枚を配布した。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

- 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、吊り下げバナー
- 66プラザ 水景、ポスターボー、柱面特設シート、植栽マウントフラッグ

- 大屋根プラザ 吊り下げバナー
 - けやき坂 歩道照明バナー
- (六本木地区内の広報活動)
- 六本木駅 柱巻き、オープニング・クロージング作品ポスター

[TIFF ARIGATO プロジェクトの活動]

① TIFF ARIGATO 募金

会期前の3月から10月の会期終了日まで、映画祭のイベント会場において募金箱を設置し、募金活動を行った。最終日までの募金総額は、1,376,097円。この募金とチャリティオークションでの売上金、及び、映画祭チケット・グッズ売上げの一部を併せた総額3,229,336円を「緑の東京募金」「木下の森」「ローソン緑の募金」及び、「シネマエール東北」（被災地での上映活動への支援）、トルコ大使館（10月のトルコ地震への義援金として）、日本赤十字社に寄付した。

② TIFF ARIGATO メッセージ&リストバンド

期間中に600名以上の参加者から写真と応援メッセージをいただき、応援の印となるリストバンドを配布した。これらの写真とメッセージの一部はTIFF公式サイトで公開中。

③ 「東京国際映画祭 in 仙台」特別上映会

10月25日（火）MOVIX 仙台にて特別上映会を開催、応募総数1,781名の中から708名の仙台地区の皆様を招待し、新作映画4本を楽しんでいただいた。作品ゲストとして、『ハルのふえ』では野沢雅子さん、戸田恵子さん、『ステキな金縛り』では三谷幸喜監督、西田敏行さんが上映に駆けつけていただき、大いに盛り上がった。上映終了後、協賛各社様提供のグッズセットを皆様に配布した。

④ 特別上映「震災を越えて」の実施

『がんばっぺフラガール！～フクシマに生きる。彼女たちのいま～』『ギリギリの女たち』の2作品を特別上映枠にて上映。また、KWNの協力による『今、伝えたいこと～きくとわらえる2021製作委員会』として、岩手、宮城、福島の小中学生たちが撮影したメッセージ映像を上映、トークショーを実施した。

2. 国際振興支援事業

【 情報発信事業 】

（１）映画祭・映画賞出品支援（文化庁委託事業）

海外映画祭・映画賞に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■ 平成２３年度支援実績

- ① 総採択数 83 件（平成 22 年度実績 76 件）
- ② 総申請件数 215 件（同 228 件）
- ③ 支援総額 32,290,444 円（同 32,172,235 円）
- ④ 主な支援作品
 - ・カンヌ国際映画祭 『一命』（三池崇史監督）、
 - ・カンヌ国際映画祭 『朱花の月』（河瀬直美監督）
 - ・モスクワ国際映画祭 『一枚のハガキ』（新藤兼人監督）
 - ・ロカルノ国際映画祭 『東京公園』（青山真司監督）
 - ・ロカルノ国際映画祭 『サウダーヂ』（富田克也監督）
 - ・モントリオール世界映画祭 『アントキノイノチ』（瀬々敬久監督）
 - ・モントリオール世界映画祭 『わが母の記』（原田真人監督）
 - ・サンセバスチャン国際映画祭 『奇跡』（是枝裕和監督）

（２）日本映画・アニメ情報の展示と提供（文化庁委託事業）

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパングース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

■ 出展映画祭

- ① カンヌ国際映画祭（平成 23 年 5 月 11 日～22 日）＊ジェトロとの共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭（平成 23 年 6 月 6 日～11 日）
 - ・MIFA（マーケット）内の会場で、「ジャパンレセプション」を開催（6 月 9 日）。
- ③ トロント国際映画祭（平成 23 年 9 月 8 日～18 日）
 - ・韓国映画振興委員会（KOFIC）と共同で「アジアブース」として出展
 - ・国際交流基金トロント日本文化センターにて「アジア映画レセプション」を開催（9 月 12 日）。国際交流基金、KOFIC、ユニジャパンが共催
- ④ プサン国際映画祭（平成 23 年 10 月 6 日～14 日）＊当財団による単独出展

- ⑤ ベルリン国際映画祭（平成 24 年 2 月 9 日～19 日）
- ⑥ 香港国際映画祭（平成 24 年 3 月 21 日～4 月 5 日）＊ジェトロとの共同出展

（３）海外向け日本映画・アニメ年鑑の発行と配布（文化庁委託事業）

平成 23 年に劇場公開された代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載、主要映画祭・映像見本市にて配布した。

■ Japanese Film 2012

- ① 配布数：3500 部
- ② 配布先：カンヌ、アヌシー、トロント、プサン、TIFFCOM（東京）アメリカン・フィルム・マーケット（ロサンゼルス）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市
- ③ 掲載作品：選考委員会により代表的な 80 作品を選んで日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会からの協力を得て、各種統計情報を掲載

（４）海外向け日本映画データベース・JFDB の開発（国際交流基金共同事業）

日本映画・アニメの作品情報を日英バイリンガルでデータベース化している。平成 23 年度からは、これまでの経済産業省からの委託事業から国際交流基金との共同事業となり、在外事務所からの日本映画に関する市場情報収集を行う。

公開年	掲載作品数
2002 年	40
2003 年	118
2004 年	138
2005 年	117
2006 年	223
2007 年	289
2008 年	372
2009 年	376
2010 年	398
2011 年	366
合 計	2,437

（５）DVD ライブラリーの設置

来日する海外の映画祭関係者が新作日本映画を視聴できる「DVD ライブラリー」を財団内に設置。また、カンヌ、ベルリン映画祭等での「ジャパンプース」内にも設置し所蔵作品 DVD を現地に発送、海外においても視聴サービスを実施している。

■ 平成 22 年度の概要

- ① 視聴者数：57 人（平成 21 年度は 47 人）
- ② ライブラリー所蔵作品数：737 作品（平成 21 年度は 646 作品）
- ③ 主な視聴者：ベネチア映画祭、ベルリン映画祭、プサン映画祭、全州映画祭（韓国）、ニッポン・コネクション（ドイツ）、ニューヨークアジア映画祭

（6）海外ネットワークの推進

TIFFCOM 企画マーケットの場を活用し、日本の映画製作者と中国、韓国、ヨーロッパの映画製作者とのビジネスミーティングなどの交流会を実施した。

■ ネットワークイベント実施実績

- ① 中国：中国電影合作制片公司（CFCC）のコーディネートにより、15 人の中国映画製作者が TIFFCOM に参加
- ② 韓国：韓国映画振興委員会（KOFIC）のコーディネートにより、5 人の韓国映画製作者が TIFFCOM に参加
- ③ ヨーロッパ：日本とヨーロッパの映画協力を推進するために、ヨーロッパの映画製作者団体（ACE）の関係者が TIFFCOM に参加

【 国際支援事業 】

（1）マーケット事業実施（経済産業省委託事業）

（1）－1 TIFFCOM 2011（Marketplace for Film & TV in Asia）

第 8 回目となる平成 23 年度の TIFFCOM は、過去最高となる 226 の出展団体が参加した。また、バイヤー登録は、昨年度と比較して 14.6%増加した 817 人となり、購入の決定権をもつバイヤーの割合も昨年の 51.8%から 54.2%へと伸びている。TIFFCOM 全体の延べ参加人数も、約 20,000 人となり、アジア有数のコンテンツマーケットとしての位置を確立しつつある。

■ 実施概要

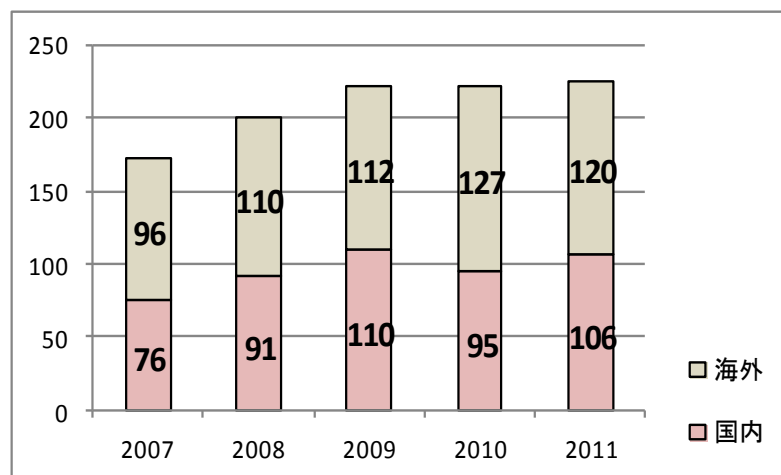
- ① 主催：経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催：第 24 回東京国際映画祭実行委員会
- ③ 連携企画：国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2011

- ④ 連携イベント：ユニジャパン エンタテインメント フォーラム
クリエイティブ・マーケット TOKYO 2011
- ⑤ 期日： 平成 23 年 10 月 24 日（月）～10 月 26 日（水）
- ⑥ 会場： 六本木ヒルズ森タワー40 階、49 階
アスミックエース試写室

TIFFCOM2011 結果報告

出展者データ

2011年度出展団体数
226団体【日本106団体、海外120団体】



2011年度 国別出展団体数

国名	数	国名	数	国名	数
日本	106	中国	6	イスラエル	1
韓国	34	フランス	4	オーストラリア	1
台湾	20	香港	4	ギリシャ	1
イギリス	13	インド	2	ドイツ	1
マレーシア	12	フィリピン	2	ナミビア	1
アメリカ	7	タイ	2	メキシコ	1
カナダ	7	イタリア	1	合計	226

バイヤーデータ

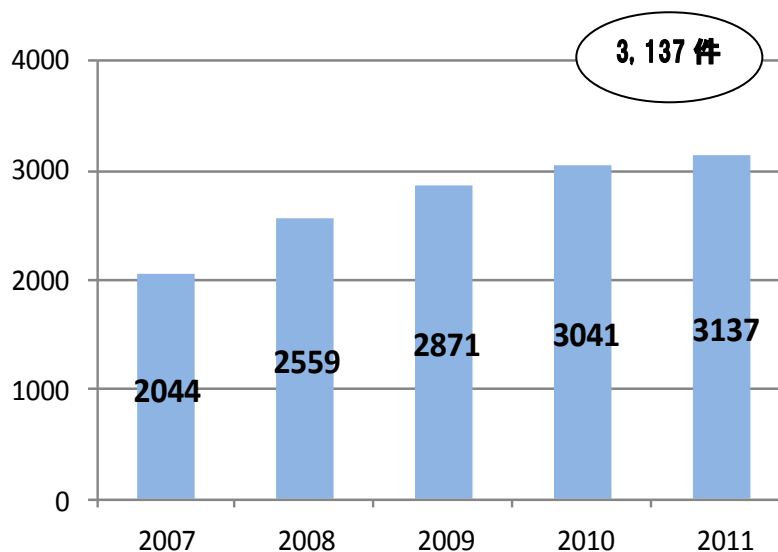
◆2011 年度 : 817 人 ※ 2010 年度より 14.6%増加

2011年度 国・地域別バイヤー数

国・地域	数	国・地域	数	国・地域	数
アジア	738	ベトナム	4	ヨーロッパ	29
日本	359	ブルネイ	1	イギリス	9
韓国	91	クウェート	1	フランス	5
台湾	77	モンゴル	1	イタリア	5
香港	73	オセアニア	4	ロシア	3
中国	47	オーストラリア	4	ハンガリー	2
タイ	24	北アメリカ	43	スペイン	2
シンガポール	20	アメリカ	39	ドイツ	1
マレーシア	15	カナダ	4	スウェーデン	1
フィリピン	11	南アメリカ	3	トルコ	1
インドネシア	7	ブラジル	3		
インド	7			合計	817

契約金額および商談件数推移

◆2011 年度 ： 総契約金額：\$45,065,142（約 35 億 6780 万円）



(1) - 2 TIFFCOM 2011 企画マーケット

これまで6年間実施してきた企画マーケット（TPG - Tokyo Project Gathering）をリニューアルし、海外との共同製作を推進するための新しい企画マーケットとして再編。文化庁の国際共同製作支援事業と連携し、有望な共同制作企画を発掘することを目的として、映画製作者および出資者向けのプログラムを行った。

■ Masters 部門ビジネスマッチング

海外発の日本との共同製作企画を日本の映画製作者、出資者に紹介するためのビジネスマッチングを行った。

- ① 期日：平成 23 年 10 月 26 日（水）～10 月 27 日（木）
- ② 会場：六本木ヒルズ森タワー40 階
- ③ 日本からの参加企業：松竹、角川、日活、アミューズ・エンタテインメント、ロボット、シネバザール 等

■ New Talent 部門プレゼンテーション

(TIFFCOM & CMT コラボ・プログラム New Talent 企画ピッチ&サポート)

今後国際的な活躍が期待できる日本の若手映画製作者の企画を対象とし、公募により4企画を選出、業界関係者の聴衆に向けプレゼンテーション（ピッチ）を行った。このプレゼンテーションには、「クリエイティブ・マーケット TOKYO 2011」（後述）のコンペティションブース参加者からも4企画が参加、審査委員会の協議により、以下の2企画に対して企画開発費の支援が決定した。

- ① 名称：「TIFFCOM&CMT コラボ・プログラム New Talent ピッチ&サポート」
- ② 日時：10月26日(水)13:00～15:00
- ③ 場所：六本木ヒルズ40階 TIFFCOM 内セミナースペース

【支援決定企画】

- ・『波の向こう』三宅 響子
 - *ドキュメンタリー企画。ピッチの結果、日本、イギリス、ドイツの出資による共同製作が決定した。
- ・『banapara ♪ アプリ』村山 太（ボーナス）

【審査委員会】

- ・富山 省吾（日本アカデミー賞協会 事務局長）
- ・藤井 雅俊（Creative Market Tokyo 2011 審査員長）
- ・陸川 和男（株式会社キャラクター・データバンク 代表取締役社長）

(2) 国際共同製作への支援（経済産業省委託事業）

TIFFCOM 企画マーケットと連動し、日本の国際共同製作支援プログラムを海外に知らせるための各種活動を実施。また、国際共同製作を促進するための検討委員会を開催するとともに、文化庁の国際共同製作映画への支援に向けた新たな認定制度を発足、第一回の認定を行った。

■ 支援活動を実施した映画祭及びネットワーク・イベント

- ① カンヌ国際映画祭 Producers Network（平成23年5月11日～22日）
- ② アヌシー国際アニメーションフェスティバル（平成23年6月8日～10日）
- ③ タリン・ブラックナイツ映画祭 Industry Days（平成23年11月29日～30日）
- ④ 香港フィルマート（平成24年3月19日～22日）
 - ・日本、中国、韓国、香港、台湾のプロデューサーの出席を得て、国際共同製作をテーマとしたセミナーを実施。

■ 国際共同製作促進のための検討委員会の開催

【検討委員会】

- ・ 石川知春 NPO 法人映像産業振興機構 事務局長
- ・ 石川光久 株式会社プロダクション・アイジー 代表取締役社長
- ・ 井関 惺 株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
- ・ 大山秀徳 一般社団法人日本動画協会 副理事長
東映アニメーション株式会社 常務取締役
- ・ 華頂尚隆 一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
- ・ 富山省吾（委員長） 日本アカデミー賞協会 事務局長
- ・ 堀越謙三 有限会社ユーロスペース 代表取締役
東京藝術大学大学院映像研究科教授
- ・ 和田倉和利 株式会社シネバザール 代表取締役

■文化庁国際共同製作支援のための認定

- ① 応募件数：26 件
- ② 認定件数：13 件
- ③ 文化庁支援採択件数：5 件

	区分	作品名	団体名
1	劇映画	天上の風	有限会社シー・エム・シー
2	劇映画	Legend of the T-Dog	有限会社四面楚歌
3	劇映画	The End (Like Someone In Love)	有限会社ユーロスペース
4	アニメーション映画	グスコブドリの伝記	株式会社手塚プロダクション
5	アニメーション映画	BLOOD-C 劇場版	株式会社プロダクション・アイジー

* 日本・フランスの共同製作となった『Like Someone in Love』は、2012 年カンヌ国際映画祭コンペティション部門の招待作品に決定した。

（３）「エンタテインメント・フォーラム」の開催

東京国際映画祭および TIFFCOM の開催時期に合わせて開催。国内外のコンテンツ産業の動向をテーマに、国際共同製作、資金調達、キャスティング、企画開発、海外展開といったビジネス及びクリエイティブの将来を展望する、全 22 のセミナーを 6 日間にわたって実施した。

■ 実施概要

- ① 日 程：平成 23 年 10 月 23 日（日）～28 日（金）
- ② 会 場：六本木ヒルズ森タワー40F/49F
- ③ セミナー数：22
- ④ 参 加 者：2,514 人

■ セミナー内容

1. オープニングセッション「ワーキング・ウィズ・ジャパン ～世界の映画にとっての“日本”とは？」
2. 変化を遂げる中国映像コンテンツ市場 ―テレビ・ネット配信ビジネスの現場から
3. 東アジアコンテンツプレゼンテーション
4. 焦点・中国の動画配信ビジネス ―流通促進と権利保護―
5. 海外映画祭プログラマーサミット
6. CineGrid @ TIFF 2011
7. 英国における最新放送事情
8. アニメ共同製作：海外とのパートナーシップと資金調達
9. 韓国のグローバルファンドとロケーションインセンティブ制度について
10. K-POP の目指す世界戦略
11. マンガ・アニメビジネス最前線 ～異業種との新たな市場創造～
12. 『こびとづかん』にみる創造コンセプトのつくり方
13. 米国アニメ市場戦略 ―BtoC へのパラダイムシフトを追う―
14. 進化するテレビ国際共同制作最前線「NHK スペシャル」から「大科学実験」まで
15. VFX-JAPAN キックオフミーティング
16. 2010 年のコンテンツ産業の市場規模
17. 成功する地域コンテンツ産業育成のポイント
18. イメージベース AR がもたらす新しい映像体験とビジネスの可能性
19. 「視聴覚障害者のための『映画』の在り方を考える」シンポジウム／『幸福の黄色いハンカチ』バリアフリー上映会
20. スペシャルセミナー：地域コンテンツの力①「日本各地方からの TV 局発、キャラクタービジネスの可能性」
21. スペシャルセミナー：地域コンテンツの力②「日本の地方放送局、アジアへ～国境を越えた番組共同開発の歩み」
22. ビジネスを広げる You Tube の活用法

（４）国際事業を担う人材育成事業の実施（経済産業省委託事業）

（４）－１ 若手プロデューサーの留学支援事業

経済産業省からの受託事業「若手映像等人材海外研修・国際ネットワーク構築事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する米国フィルムスクール（大学院）への留学生に対する学費等の支援、米国及び国内における研修の実施、人材育成に関連する調査等を行った。

■ 長期留学支援事業

- ① 対象となるフィルムスクール（大学院プロデューサーコース）
 - ・ University of Southern California (USC)
 - ・ University of California, Los Angeles (UCLA)
 - ・ American Film Institute (AFI)
 - ・ New York University (NYU)
 - ・ Columbia University
- ② 平成 23 年度支援対象者
 - ・ 小原康平 (AFI Conservatory Producing Discipline)
 - ・ 呉良次 (AFI Conservatory Producing Discipline)
 - ・ 三谷匠衡 (USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program)
 - ・ 宮川絵里子 (USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program)

■ 研修事業の実施

- ① 米国短期研修プログラム
 - ・ 米国ロサンゼルスフィルムスクール UCLA において、映画製作の企画開発について実習を通じて身につける短期研修プログラムを実施
 - ・ 日程：平成 23 年 8 月 21 日～26 日
 - ・ 参加者：14 人
- ② 北海道での国内研修の実施（ゆうばり国際ファンタスティック映画祭との連携）
 - ・ 国際若手人材のための映画プロデュースワークショップ
 - ・ 海外 10 カ国から若手映像製作者が参加し、国内からの参加者とともに北海道を舞台にした国際共同製作の企画開発を行うワークショップを実施
 - ・ 日程：平成 24 年 2 月 22 日～25 日
 - ・ 参加者：19 人
- ③ 沖縄における国内研修の実施（沖縄国際映画祭との連携）
 - ・ コンテンツ国際共同製作ワークショップ in 沖縄
 - ・ アジア圏の 6 カ国からプロデューサーが参加し、国内からの参加したプロデューサーとともに国際共同製作の企画開発を行うワークショップを実施
 - ・ 日程：平成 24 年 3 月 25 日～27 日
 - ・ 参加者：28 人
- ④ コンテンツ人材育成調査
 - ・ ベトナムにおける人材育成調査
 - ・ アジア地域で成長が期待されているベトナムのコンテンツ市場及び人材育成に関する調査を実施

(4) - 2 若手クリエイターの短編制作と国際ネットワーク支援

(4) - 1と同じく、経済産業省からの受託事業である、「若手映像等人材海外研修・国際ネットワーク構築事業」として実施。日本の若手クリエイターの海外進出を支援することを目的とする。若手クリエイターの発掘に関しては、前年に引き続き「PFF アワード（ぴあフィルムフェスティバル・コンテスト部門）」と連携して実施した。

■ 制作した短編映画

PFF アワード 2011 を共催し、若手クリエイターの発掘を目的としたコンテスト、入選者等を対象とした短編映像制作プログラムを実施。選考により以下の3作品を制作。

- ・『Nostalgic Woods』（監督：森岡 龍）
- ・『少女と、女』（監督：勝又 悠）
- ・『I'm Home』（監督：中村 拓朗）

■ 出品した国際映画祭

- ① カンヌ国際映画祭（平成 23 年 5 月）：フランス
 - ・短編コンペティション部門に前年度事業で製作された『ふたつのウーテル』（田崎恵美監督）が、日本映画として 45 年ぶりに正式招待。
- ② ハンブルク日本映画祭（平成 23 年 5 月）ドイツ、カメラジャパン（平成 23 年 9 月）オランダ
 - ・前年度事業で制作された 10 作品が特集上映。
- ③ プサン国際映画祭（平成 23 年 10 月）：韓国
 - ・前年度事業で制作された『日曜大工のすすめ』（吉野耕平監督）が特別賞受賞。
- ④ OZU 国際映画祭（平成 23 年 5 月開催）：イタリア
 - ・前年度事業で制作された『日曜大工のすすめ』がコンペティション部門に、『バーニング・ハーツ』（ジェームズ・マクフェイ監督）がクロージング作品として出品。
- ⑤ クレルモンフェラン国際短編映画祭（平成 24 年 1 月）：フランス
 - ・前年度事業で制作された『日曜大工のすすめ』がコンペティション部門入選
- ⑥ 香港国際映画祭（平成 24 年 3 月）：中国
 - ・『Nostalgic Woods』（森岡 龍監督）、『少女と、女』（勝又 悠監督）および前年度作品のマーケットスクリーニングを実施。監督 2 名、プロデューサー 2 名が参加し、プロモーションやネットワーキングを行った。
 - ・前年度事業で制作された『トビラを開くのは誰？』（伊月 肇監督）が、コンペティション部門に招待。

(5)「クリエイティブ・マーケット TOKYO (CMT 2011)」の制作運営

(関東経済産業局補助事業)

TIFFCOM 2011 の連携イベントとして実施。オールジャンルのコンテンツ制作者の“ビジネス登竜門”であり、若いクリエイターや中小企業にとっての販路の確保や製作資金の調達を支援することを目的としている。

■ 実施概要

- ① 出展者数：106 ブース
- ② 総来場者数：2,047 人

期日： 平成 23 年 10 月 26 日（水）～28 日（金）

会場： 六本木ヒルズ森タワー40F

主催： 公益財団法人ユニジャパン（経済産業省 関東経済産業局 補助事業）

後援： 韓国コンテンツ振興院、財団法人 CG-ARTS 協会、独立行政法人中小企業基盤整備機構、財団法人デジタルコンテンツ協会、社団法人デジタルメディア協会、一般社団法人日本商品化権協会、一般社団法人日本動画協会、不正商品対策協議会、香港貿易発展局

■ CMT 2011 プロフェッショナル・プレゼンテーション

プロフェッショナルブースの出展企業 10 社が、来場者に向けて自社コンテンツのプレゼンを行い、その内容を、国内外のメディア、メーカー、流通各社からなる審査委員会が評価しグランプリを決定。

- ① 受賞企業
 - ・ グランプリ：株式会社コスモマーチャンダイズィング
 - ・ 準グランプリ：株式会社スタジオフェイク

■ CMT アワード 2011

CMT 2011 のコンペティションブース出展者及び地域ブースに出展しているコンテンツ入賞者の出展作品の中から優れたコンテンツを選出、表彰を行った。

① CMT アワード 2011

CMT 審査員の審査によって、市場性や将来性において優れていると認められたコンテンツに与えられる大賞、審査員特別賞に加えて、今年度は、東日本大震災からの復興をテーマにしたコンテンツの中から最もふさわしい作品を表彰する復興コンテンツ賞と海外展開促進のための国際賞を創設。

- ・ 大賞 『コルボッコロ』（糸曾賢志）
- ・ 復興コンテンツ賞 『我武者羅應援團第九応援歌』（我武者羅應援團）

- ・審査員特別賞 5 名
- ・サポーターズ賞 10 名
- ・国際賞 9 名

② ライセンシング・オブ・ザ・イヤー2011

ライセンスビジネス産業の価値を広く社会に発信するとともに、業界の健全な発展に寄与することも目的に1年間で最も活躍したプロパティ（キャラクター、ブランド等）を一般投票、審査委員による投票で選出。

- ・グランプリ『こびとづかん』（長崎出版株式会社、株式会社ビルドー）

（6）ニュースレターの制作発信

世界各地の映画祭エントリー情報や日本映画の出品・受賞情報を掲載したメールマガジン「Unijapan Newsletter」を隔週で発行（日本語版、英語版）。またこのニュースレターは本財団のウェブサイトにも転載され、より広く情報提供を行なっている。

■エントリー情報を掲載した海外映画祭及び映像見本市の数

開催地域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	98 件（102 件）
南北アメリカ	37 件（52 件）
中近東アフリカ	8 件（8 件）
アジア太平洋	23 件（25 件）
日本	5 件（7 件）
合 計	171 件（193 件）

※（ ）内の数字は、平成 22 年度のものの。

【 調 査 研 究 事 業 】

（1）「文化庁映画週間」の制作運営

東京国際映画祭に会期を合わせて、平成 23 年 10 月 22 日～29 日、六本木ヒルズ他にて開催。

■ 文化庁映画賞

① 文化映画記録部門受賞作品

（授賞式を 10 月 22 日、記念上映会を 10 月 23 日に実施）

- ・文化記録映画大賞

『ショージとタカオ』 監督：井手洋子 製作者名：井手洋子

・文化記録映画賞優秀賞

『夢と憂鬱 ～吉野馨治（けいじ）と岩波映画～』

監督：桂 俊太郎

製作団体名：記録映画「夢と憂鬱－吉野馨治と岩波映画」製作委員

『里湖（さとうみ）八郎潟物語』

監督：岩崎雅典

製作団体名：株式会社群像舎

② 文化庁映画賞 映画功労部門受賞者（授賞式を10月22日に実施）

- ・岡安和子 （フィルムネガ編集）
- ・金田 正 （スチール）
- ・兼松熙太郎 （映画撮影監督）
- ・小林七郎 （アニメーション美術）
- ・笹竹利行 （映画美術文字デザイン）
- ・高嶋利雄 （映画照明）

■ シンポジウム - Movie Campus - （開催日：10月28日）

第一部：「今、日本のアニメーション映画の未来を考える」

① ゲスト

- ・沖浦啓之（アニメーション映画監督）
- ・布川郁司（株式会社ぴえろ代表取締役／一般社団法人日本動画協会 理事長）
- ・風早完次（東映アニメーション株式会社 取締役 経営戦略本部 海外ライセンス事業部長兼海外戦略推進部長）
- ・鈴木亜矢（アニメーター）
- ・永川竜介（アニメ評論家）

② モデレーター

- ・岡本美津子（東京藝術大学 映像研究科アニメーション専攻 教授）

第二部：「映画でつながるために。——風穴を開けつづける映画業界の挑戦者たち」

① ゲスト

- ・阿部秀司（株式会社阿部秀司事務所／株式会社ROBOT 創業者・顧問）
- ・川村元気（映画プロデューサー）
- ・梅津文 （GEM Partners 株式会社代表取締役）

② モデレーター

- ・斉藤守彦 （映画ジャーナリスト）

■講演会：映画ナビゲーターズ

① 本田直之流・レバレッジ映画術（開催日：10月24日）

- ・ゲスト：本田直之（レバレッジコンサルティング株式会社代表取締役社長兼 CEO）
- ・モデレーター：Sascha（J-WAVE ナビゲーター）

② 忘れられない女たち（開催日：10月29日）

- ・ゲスト：小島慶子（ラジオパーソナリティー）
- ・モデレーター：松岡ひとみ（映画パーソナリティー）

Ⅱ. [処 務 の 概 要]

1. 役員に関する事項

(平成24年3月31日現在)

役職名	氏 名	任 期	常勤/ 非常勤	報 酬 等	法人以外の現職
代表理事 理事長	高井 英幸	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	東宝株式会社 相談役
理事	岡田 剛	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	東映株式会社 代表取締役社長
理事	小野 直路	自 平成23年3月18日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	日本放送協会 副会長
理事	崔 洋一	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	協同組合日本映画監督協会 理事長
理事	迫本 淳一	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	松竹株式会社 代表取締役社長
理事	佐藤 直樹	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	日活株式会社 代表取締役社長
理事	椎名 保	自 平成22年9月 2日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	株式会社角川書店 代表取締役専務
理事	布川 郁司	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	一般社団法人日本動画協会 理事長
理事	廣瀬 道貞	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	前 社団法人日本民間放送連盟 会長
理事	藤井 宏昭	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	森アーツセンター 理事長
理事	松岡 宏泰	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	東宝東和株式会社 代表取締役社長
理事	杉本 晶	自 平成23年6月20日 至 平成25年6月20日	非常勤	無	株式会社電通 取締役 常務執行役員
理事	依田 巽	自 平成22年7月 1日 至 平成24年6月20日	非常勤	無	社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ 産業部会 会長
監事	大藏 満彦	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長
監事	濱野 保樹	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	東京大学大学院 教授
評議員長	大谷 信義	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長
評議員	岡田 正代	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	公益財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長
評議員	柏原 寛司	自 平成22年9月 2日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	社団法人日本シナリオ作家協会 会長

役職名	氏 名	任 期	常勤/ 非常勤	報 酬 等	法人以外の現職
評議員	角川 歴彦	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	株式会社角川グループホールディングス 取締役会長
評議員	兼松熙太郎	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画撮影監督協会 理事長
評議員	古森 重隆	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	富士フイルム株式会社 代表取締役社長・CEO
評議員	佐藤 孝	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ 相談役
評議員	佐野 哲章	自 平成22年9月 2日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 業務執行役員
評議員	新藤 次郎	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画製作者協会 代表理事
評議員	杉田 成道	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	協同組合日本映画テレビプロデューサー協会 会長
評議員	塚田 芳夫	自 平成22年9月 2日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	公益社団法人映像文化製作者連盟 会長
評議員	松岡 功	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	一般社団法人映画産業団体連合会 会長
評議員	矢内 廣	自 平成22年7月 1日 至 平成26年6月30日	非常勤	無	びあ株式会社 代表取締役社長

2. 役員会等に関する事項

理 事 会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成23年6月20日	第1号議案 平成22年度事業報告案及び収支決算案の承認の件 第2号議案 平成23年度収支予算一部変更案の承認の件 第3号議案 財団役員と法人間取引承認の件 第4号議案 監査委員会委員委嘱案承認の件 第5号議案 評議員会招集日設定案の承認の件 第6号議案 主たる事務所移転案の承認の件	可決 〃 〃 〃 〃 〃
平成24年3月16日	第1号議案 平成24年度事業計画案及び収支予算案の承認の件 第2号議案 規程新設案の承認の件 第3号議案 第24回東京国際映画祭実行委員会の解散並びに 第25回東京国際映画祭実行委員会の設置及び同 実行委員選任案の承認の件 第4号議案 評議員会招集日設定案の承認の件	可決 〃 〃 〃

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成23年6月20日	第1号議案 理事(1名)選任案の承認の件 第2号議案 平成22年度事業報告案及び収支決算案の承認の件 第3号議案 平成23年度収支予算一部変更案の承認の件 第4号議案 監査委員会委員委嘱案承認の件 第5号議案 主たる事務所移転案の承認の件	可決 〃 〃 〃 〃
平成24年3月16日	第1号議案 平成24年度事業計画案及び収支予算案の承認の件 第2号議案 規程新設案の承認の件	可決 〃

3. 寄附金に関する事項

平成24年3月31日現在

(単位：円)

寄附の目的	寄 附 者	寄附金額	受 領 日	備 考
国 際 映 画 祭 開 催 費 用	松竹(株)	9,000,000	平成23年 7月11日	
	東宝(株)	9,000,000	平成23年 7月29日	
	東映(株)	9,000,000	平成23年 6月30日	
	(株)角川書店	9,000,000	平成23年 7月29日	
	(株)ティー・ワイ・リミテッド	6,000,000 2,300,000	平成23年12月28日 平成24年 3月29日	
	日活(株)	4,000,000	平成23年10月 5日	
	ぴあ(株)	2,500,000	平成23年11月10日	
	富士フイルム(株)	1,000,000	平成23年10月25日	
	(一社)映画演劇文化協会	1,000,000	平成23年 8月31日	
ぴあフィルムフェスティバル 制作・運営費用	(一社)映画演劇文化協会	20,000,000	平成23年 7月29日	
合 計		72,800,000		

4. 賛助会費に関する事項

(年会費 1口 50万円)

	会 員 氏 名	口数	会 員 氏 名	口数
	松竹(株)	6	(株)東北新社	4
	東宝(株)	6	アスミック・エースエンタテインメント(株)	1
	東映(株)	6	(株)ショウゲート	2
	(株)角川書店	6	(株)東急レクリエーション	1
	日活(株)	6	TOHOシネマズ(株)	1
	ワーナー・エンターテインメント ジャパン(株)	4	大蔵映画(株)	1
	(株)ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント	4	佐々木興業(株)	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)	4	武蔵野興業(株)	1
	20世紀フォックス映画	4	三和興行(株)	1
	パラマウントジャパン(株)	4	(株)東京楽天地	1

	会 員 氏 名	口数	会 員 氏 名	口数
	ギャガ(株)	3	東宝東和(株)	4
	バンダイビジュアル(株)	1	東宝アド(株)	1
	(株)IMAGICA	1	(株)サウンドマン	1
	東映ラボ・テック(株)	1	(株)クオラス	1
	シンエイ動画(株)	1	エイベックス・エンタテインメント(株)	1
	東映アニメーション(株)	2	(株)電通	4
	日本テレビ放送網(株)	4	(株)博報堂DYメディア・パートナーズ	4
	(株)TBSテレビ	4	ソニー(株)	1
	(株)テレビ朝日	4	住友商事(株)	1
	(株)フジテレビジョン	4	富士フィルム(株)	1
	(株)テレビ東京	3	(株)日本シネアーツ社	1
	(株)NHKエンタープライズ	2	トップツアー(株)	1
	(株)WOWOW	1	ウシオ電機(株)	1
	スカパー J S A T (株)	1	(一社)日本映像ソフト協会	4
	(株)衛星劇場	2	(株)ティー ワイ リミテッド	1
	(株)ニッポン放送	1	(株)ヒューマックスシネマ	1
	(株)東京タカラ商会	1	(株)チッタエンタテインメント	1
	ジュピターエンタテインメント(株)	1	(株)タカラトミー	2
	(株)ポニーキャニオン	3	(株)集英社	2
	(株)角川グループホールディングス	2	(株)サンライズ社	1
	ぴあ(株)	1	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	1
	合 計 62社 142口 71,000,000円			